

令和7年度 学校経営方針

丹波篠山市立西紀中学校

1 基本方針

日本国憲法及び教育基本法の精神にのっとり、「清純・愛郷」の校訓を基盤に、**自立**して社会に**貢献**する創造的な人間教育を進める。

2 学校教育目標

「自立 貢献 創造」
～基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って自立に向かう生徒の育成～

3 校 訓 「清 純 ・ 愛 郷」

4 めざす学校像 「安全安心を基盤に、生徒が生活・学習を創造するコミュニティ・スクール」

[学校経営の方針]

- (1) 安全安心による信頼づくり
- (2) 将来や社会への糸口となる主体性と協働性を育む集団づくり
- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり
- (4) 生徒と大人が智慧を寄せ合うコミュニティ・スクールづくり
- (5) 指導力向上と業務改善を推進する教職員組織づくり

5 めざす生徒像 「主体的な学びと仲間との学び合いを通して、深く考え実践する生徒！」

- (1) 元気で思いやりのある生徒
- (2) 意欲をもって主体的に学ぶ生徒
- (3) 協働する中で深く考える生徒
- (4) 自ら改善し実践する生徒

6 めざす教師像 教職員信条「実践・徹底・創造・協働」

- (1) 高い使命感！
- (2) チャレンジ精神！
- (3) 専門性の向上！
- (4) 教育公務員としての自覚！

7 めざす学校・家庭・地域連携像 「夢・やりがい・やすらぎ チーム西紀中学校」

- (1) 夢 : 社会や将来につながるキャリア教育、ふるさと教育、学力向上
- (2) やりがい : 自己肯定感、公共心を高めるボランティア活動等、地域貢献活動
- (3) やすらぎ : 安全安心・信頼を高める防災、安全、人権教育、生徒指導

8 指導の重点と実践項目

(1) 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善

- ① 兵庫型学習システム加配、**児童生徒支援教員等**を効果的に活用し、少人数指導や**同室複数指導**により、学習意欲の向上、**習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習**など、**生徒の課題に対応した指導方法の工夫・改善**を進める。
- ② **学習のねらい**と見通しを立て、書くことによる個人思考、「**思考スキル**」を働かせた対話的な学び合い、振り返りによる**学びの深まりの実感**など、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を鍛えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。〔西紀中学校学習スタンダード〕

- ③ 習熟の程度に応じた課題を提供したり、情報を瞬時に共有できたりするなどのICTの長所をこれまでの実践に組み合わせ、個々の生徒に応じた学習（個別最適な学び）と他者と協働する学習等（協働的な学び）の一体的な充実を図る。
- ④ 知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりするなど、家庭での学習課題の適切な設定や放課後学習等の充実を図る。
- ⑤ 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現在的な諸課題に対応する資質・能力を、各教科等において教科横断的な視点で育成する。
- ⑥ 読書への興味を深めるとともに、学校図書館支援員や中央図書館等との連携を図ることにより、読書を通じて学ぶ楽しさや知る喜びを体得させ、自主的・自発的な読書活動につなげる。

(2) 誇りを感じる学校・学級集団

- ① 学校・学級の課題について、話し合い合意形成・協力して改善することを通して、現在及び将来を見据えた課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。
- ② 学級の生活・学習を話し合い、PDCAサイクルで改善する中で、誇りと責任感をもち、よりよい生活や人間関係を築く自主的・実践的な態度を育てる。
- ③ 生徒会・教科係が生活・学習の諸課題を解決・改善する活動を通して、協力・協働して諸課題を解決する生活・学習マネジメント能力を育てる。
- ④ 学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協力して課題解決したりする自主的、実践的な態度を育てる。
- ⑤ 効率的、効果的に部活動を行い、顧問と協議しながら自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。

(3) 未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育・進路指導

- ① 将来の職業構造の変化や新産業の創出も踏まえつつ、教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを考える中で、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考え、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。
- ② 生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。
- ③ 体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲、態度を養う。
- ④ 地域人材による学習や地域貢献活動により、ふるさと「西紀」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。

(4) 存在感や成就感を大切にした生徒指導

- ① 生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた発達支持的生徒指導を進める。
- ② 全教職員の共通理解のもと、誰もが安心して学べる学校づくり、安全安心な居場所づくりに努め、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。
- ③ スクールカウンセラーと連携した教育相談活動を充実するとともに、相談窓口を明確化し、問題行動・いじめ等の早期発見・早期対応に努める。
- ④ 生徒指導方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携し継続したケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。
- ⑤ 法・条例・学校基本方針や生徒会「いじめ0宣言」によりアンケートや教育相談等を行い、いじめを積極的に認知し、関係機関とも連携し、早期解決を図る。
- ⑥ 情報機器の使用時間や使用目的について、生徒会活動や関係機関と連携し、コミュニケーションや

個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させる。

(5) 豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育・特別活動

- ① 特別支援教育を中核に据え、**生徒一人一人の教育的ニーズや実態の把握を起点としたユニバーサルデザイン**や教育支援計画における合理的配慮を充実し、豊かな人間関係づくりと、ともに伸びる力を育成する。
また、**学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服することをめざす「通級による指導」の充実を図る。**
- ② 他者や自己との対話による道徳の時間を要として体験的・実践的活動をはじめとする学校の教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ③ 人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的に生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。

(6) 危機管理意識を高め、自らの命を守り抜く安全・防災教育

- ① 西紀中学生4つの宝（挨拶・全力・傾聴・素直）を基盤に、きびきびした生活、すがすがしい環境、温かい仲間による安全安心で規律ある教育環境を確立する。
- ② 安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時即応する。
- ③ 食・睡眠・交通をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災や国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する能力を育成する。
- ④ 家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や自転車保険への加入等、安全に対する意識の高揚を図る。

(7) 美しく活気に満ちたコミュニティ・スクール

- ① ホームページ、オープンスクール、学校だより等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。
- ② 生徒会と学校運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来につながり、夢・やりがい・やすらぎ（安全安心）を体感する教育を進める。
- ③ 学校運営協議会の協力のもと、教育課程の評価による改善や、人的物的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。
- ④ 小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての学びと育ちの連続性を確立する。

(8) 笑顔と元気に満ちた教職員組織

- ① **複数担任制、研究授業等、日々の教育実践を振り返り、他の教職員と学び合うことを通して、豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。**
- ② 心を外に開き、基礎的指導力向上を図り、保護者や地域の人々の期待に応えられる教職員組織であるよう研究と修養に努める。
- ③ 法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、**学校教育を取り巻く環境**の変化に対応した教育観を培う。
- ④ 笑顔と元気に満ちた態度で生徒と向き合うため、働きがいのある学校づくり、**教職員の負担軽減を図るため、ICTや地域人材を効率的かつ積極的に活用するとともに、兵庫県教育委員会の「GPH100+」や勤務時間の適正化の好事例の活用等により、更なる業務量削減に努める。**

9 研究主題

(1) 思考型のめあてが導く学びの深まり ～主体的・対話的・探究的な学習活動を通して～

【令和7年度 丹波篠山市教育委員会指定研究事業（自由研究）】

研究テーマ設定の理由

本校の指導の重点項目「基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善」に基づき、授業において、少人数指導や同室複数指導等を効果的に活用し、学習意欲の向上、習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習など、生徒の課題に対応した指導方法の工夫・改善を進める。

また、学習のねらいと見通しを立て、書くことによる個人思考、「思考スキル」を働かせた対話的な学び合い、振り返りによる学びの深まりの実感など、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を鍛えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。

今年度はさらに、習熟の程度に応じた課題を提供したり、情報を瞬時に共有できたりするなどのICTの長所をこれまでの実践に組み合わせ、個々の生徒に応じた学習（個別最適な学び）と他者と協働する学習等（協働的な学び）の一体的な充実を図る。

研究内容及び研究方法

上記のテーマのもと、下記の3点に主眼をおいて、取組を進める。

- ① 思考型のめあての設定により、自分の考えをもち、交流を通して、主体的に取り組む態度や説明能力等を養う。

授業、単元ごとの「ねらい（指導者側の教育目標）」を明確にし、知識型「～を知る」「～がわかる」、技能型「～ができるようになる」を発展させ、思考型「なぜ～なのだろうか」「どうしたら～できるだろうか」に導く工夫を行う。

- ② ねらいに対して有効な学習活動の展開を図る。

例として、ICTの活用推進により、教師がICTのメリット・デメリットを考え交流し、よりよい活用方法や個別最適な学びを実現し、よりよい授業づくりへ活かす。

学習の定着、習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習など生徒の課題に対応する支援として、教え合い活動やスタディサプリ、クラウド等の有効活用を図る。

- ③ 教科の学習評価と個別最適な指導についての研修と実践を図る。

- ・年2回、講師を招いた研修（5月末及び8月） → 研究授業の実施
- ・新しい教科書の導入に伴う評価基準等の見直し、改善

(2) 多面的・多角的に考え、議論する道德の授業づくり ～他者や自己との対話を通して～

【令和7年度 道德教育拠点校育成支援事業】

令和6年度の道德教育実践研究事業の取組の成果が見える授業を実践し、生徒との対話によって深める授業に焦点を当てた研究を引き続き進める。道德科授業の充実のため、年5回程度、学識経験者を招聘し、授業研究及び校内研修を実施する。

10 各学年の目標

第1学年

「出会い：に・し・き」
～愛し、愛される集団に～

に：人間力を高めよう
し：辛抱強いよう
き：きらきら輝こう

第2学年



第3学年



完全燃焼 ^{いちご}15の青春ラストステージ
走れ！3A！つなぐ35のピース
心から信頼できる仲間に！！
～最高の思い出と感動を！～
感動の卒業式！素晴らしい旅立ちに向けて
～全てが最後、全てが本気の1年間～



重点目標

- (1) 当たり前のことを当たり前に！（ルールを守る意識の更なる向上・社会人としての自覚）
- (2) 授業への集中と家庭学習を習慣化！（自分の学習方法を確立・完成）
- (3) 自分を見つめ、進路と将来の探究！（自分の生き方を考える・完成）
- (4) 人の痛みがわかる【情】のある人間に（お互いを思いやり、情のある愛される人に）
- (5) 全員がいつも熱く燃える学年で！（集団の力が個々を伸ばす）
- (6) 最上級生、リーダーとしての自覚を！！（西紀中の顔！あこがれられる存在に）

^{いちご}15・・・中学3年！15歳の青春！

いちごはみんなに愛されている！好かれている！

白いいちごが、1年間でしっかりと赤く熟しますように！

構 成		生徒の活動	教師の指導・支援	
予 習 ・ 準 備	習 得	学習活動1 教科の「見方・考え方」の理解に基づく主体的な学び 「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」：教科等の物事をとらえる視点や考え方		
		◎主体的な学び ・ 次の活動を見通し予習・準備する。 「ねらい」「知識」「実験・観察方法」 「作業方法」「問題解決のヒント」 「話し合う内容」等の理解	○「目標」の事前提示 ・ 主体的な学びの礎となる指導 きびきびした生活(時間、姿勢) すがすがしい環境(美化、掲示) さわやかな仲間(挨拶、敬意)	
		1 つかむ	・ 見方：解決すべきことを確認する ・ 考え方：学習の見通しを立てる	・ 具体物等の提示等、必然性のある課題意識をもたせ学習の見通しを立てさせる
		2 考える (個人思考)	・ 見方・考え方を働かせ、根拠を明確に、適切な学習用語や図表・グラフを使って具体的に考えたり、書いたりする。 「だから」「けれども」「本当は」「自分は」等の深く考える言葉	・ 多様な意見が引き出せる発問 短く、具体的(分量等)、1回で ○書く時間の確保と条件設定の工夫 より詳しく、具体的に書かせる ◆机間巡視による意見把握 (キーワードに着目し短時間で)
教 育 活 動	活 用	学習活動2 「見方・考え方」を働かせた対話的な学び合い 思考力・判断力・表現力を育むことに重点をおく授業→生徒が自ら考え、気づくため共通点や相違点に着目して交流 基礎的・基本的な知識・技能の定着に重点をおく授業→教師が教えるべきことは教え、理解・習得することを目的とした交流		
		◎対話的な学び合い ・ 自分の考えを発表するだけでなく考えを比較・整理・類別しながら聞き、考えを高める。	○見方・考え方を働かせ、他者の発言から、自分の考えを比較、整理、類推しながら聞き、考えを高め合う活動の工夫 ・ 具体的、論理的に対話 ・ 聞き方の指導 (違う点、気づきを朱書でメモ) ◆意図的指名によるコーディネート	
4 確かめる	探 究	学習活動3 「見方・考え方」を働かせた学びの深まりの実感		
		知識・理解思考(知識・理解) 論理的思考(応用・論理) 創造的思考(批判・創造)	知識を相互に関連付けてより深く理解 情報を精査して考えを形成・問題を見出して解決 思いや考えをもとに創造	
		◎学びの深まりの実感 ・ 自らの考えを修正・推敲する ・ 分かる、できるようになったことや今後どう活用するか確認する。 ・ 定着を図る練習問題をする。	・ 学びの深まりを実感させるための量的変容及び質的変容の評価言、確認問題、振り返り等	